

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500337		
法人名	医療法人 静光園 白川病院		
事業所名	グループホーム きらめき		
所在地	福岡県 大牟田市 上白川町 1丁目 246番地		
自己評価作成日	平成29年 3月16日	評価結果確定日	平成29年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

パーソンセンタードケアを中心にケアを行っています。本人の望まれることに耳を傾け、本人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けていけるように地域資源を活用し、地域との関わりを増やし交流を図っています。職員だけでなく、家族も一緒に本人を支えるため情報共有を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から十年を越える「グループホームきらめき」は、小規模多機能とデイサービスと棟続きで併設したユニット事業所で、徒歩圏内に母体法人の白川病院がある。系列事業所と同一敷地内で営まれることで、研修や行事などは協力して一体的に行われている。昨年からあらためて地域との関わりを深めており、ボランティア演奏などが再開された。法人の地域交流施設を活用したサークル活動や、法人が運営に携わる「よかばい体操」などもあり、地域との関係も良好である。パーソンセンタードケアによる本人本位のケアにも力を入れており、入居者の声を聴き、望みに応えることで問題行動もなくなり、意欲的になって日常生活に活力が出てきた方もいるという。今後もアットホームな雰囲気、地域との相互協力の下、益々の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが、実践できていないことや、理念意識が不十分である。しかし、地域行事に参加するなど、少しずつ、理念に添って実践している。	開設時からある理念を数年前に見直し、現在は「安心、笑顔、思いやり」に「感謝～」も加えて使っている。昨年にも改めて見直し、地域との関わりに取り組むことを職員で話し合った。休憩室と毎月のミーティングの際に振り返りも行うことで、職員にも浸透してきている。職員からの提案で、地域との関わりを意識し始め、新たな提案も生まれており、引き続き意識づけに取り組んでいく。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつ、繋がりを構築できるように、働きかけをしている。	以前来られていたボランティア演奏グループに改めて働きかけ、昨年からも定期的に来られるようになった。事業所自体が隣組として、町内会に加わっており、管理者が隣組長として自治総会にも参加している。公民館行事にも入居者と一緒に行き、地域に向けての勉強会の講師にもなった。交流室を活用した「よかばい体操」は毎週開催し、毎年の納涼祭も大々的に開放し、地域に根付いている。	グループホームとしても、地域の方が気軽に立ち寄ってもらえるような取り組みを検討している。地域の力を活用した、食事会や、園芸の協力などボランティア協力が増えていくことにも期待したい。ボランティア募集のチラシを作成しているため、病院での掲示や回覧板での掲載など周知される取り組みをしてもいいのではないだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流センターを軸に地域の方々との触れ合いを通し、理解支援を行っているが、十分に生かしているとは言えないかもしれない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出た意見はスタッフに伝達し、見直しを図っている。	併設の小規模多機能とは別日程で開催し、本人、家族、民生委員、地域住民、包括、役所、介護相談員などが参加されている。家族参加は固定していたが、昨年からは口頭で全家族に案内し、参加も増えた。参加した入居者からも意見を上げてもらい、和気あいあいとした雰囲気でも話し合われている。事業所からの困りごとなども取り上げ、ボランティア協力の助言も頂いたり、看取り介護に関しての要望があり、提携医の検討にもつながった。	日頃の様子を見てもらえるような取り組みとして、食事会形式での会議開催なども検討されてはどうだろうか。家族の参加を増やすために、土日開催を検討したり、家族会としての開催などよいのではないかと。参加しやすい茶話会のような開催形式や開催日程の伝達、曜日の検討なども進められることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば大牟田市長寿推進課と連携し、随時報告している。	運営推進会議には毎回案内し、参加もしてもらっている。質問や相談などがあつた時には気軽に電話などで訪ねており、担当課とも顔なじみの関係が出来ている。介護申請時も窓口を訪問して行い、その際にちょっとした話もされている。地域包括の担当者が来訪することもある。市主催の定例カンファレンスが毎月あり、そこに参加することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護グループ内で研修を行っている。本人の想いに目を向け、拘束のない生活してもらっている。	身体拘束に関して、法人内の系列事業所での研修を行う。玄関は日中施錠せず、夜間のみセンサー管理している。併設事業所との行き来も自由である。管理者が参加した外部研修の伝達も行っている。原則的に拘束を行わない方針で、今までにも事例はなかった。言葉かけなども注意して抑制につながらないよう気を付けている。	管理者以外の職員も研修に参加できるよう、環境を整え、働きかけがなされていくことにも期待したい。

H29.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会は、開催されて学ぶ機会があるが、職員が気づいていないこともあり、意識を高めていく必要がある。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護グループ研修を受け理解に努めている。また、必要な方がいれば専門に繋げるように努めたい。	現状では入居者の中に制度利用されている方はいない。以前、利用を勧めた方はいたが、利用には至らなかった。法人研修の中で外部講師にも来てもらって後見人制度に関しても取り上げ、一般的な理解はされている。必要時は外部の関係機関と相談して対応する。	必要時に備えて、制度資料やパンフレットなどの準備を進められることにも期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は本人や家族に十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族の要望に対して、記録し職員間で共有し解決できるようにしている。	家族の面会機会も多く、8割がたが月1回以上は来られ、その際に意見を聞いている。昨年初めて入居者と家族と一緒に外での食事を企画して、参加も多かった。介護相談員も月2回程度来ており、入居者との話もされている。毎月写真付きで「きらめきだより」を発行し、遠方の家族へは電話などでの報告も行っている。	表面化してこない意見や要望を聞く仕組みとして、アンケートや満足度調査をしてはどうだろうか。意見箱の利用なども使いやすいやり方で検討されることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアマネや看護師、スタッフと話し合いを行い検討している。	ミーティングが毎月開かれ、基本的には正社員が全員参加し、パート職員は希望により参加することもある。主に、入居者の情報共有や問題点、解決に関して話し合い、意見も活発に出されている。最近では入浴時の更衣に関して意見があり、本人の尊厳を尊重したケアに関して見直しを進めている。日頃から個別相談の機会なども気軽に持たれている。	日常生活を活発に過ごしてもらおうレクや行事など話し合いがあっても現実的につながらないものもあったりするので、具体的な取り組みとなるよう、会議の在り方や期日の考え方などを改めて検討されることにも期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの働きやすい環境をつくるために気になる点は面談をして解決するように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	事業所の特徴や期待することを伝え面談によって判断するようにしている。	男性職員が昨年入社し、年齢層は20～60歳代までと比較的若い。希望休暇や休憩時間、休憩場所の確保もある。法人の合同研修が毎月あり、正社員は基本的に毎回参加している。法人での委員会活動があり、交代しながら取り組まれる。資格取得支援制度もあり、会社からの補助がなされている。	職員に対しての研修案内がまちまちなので、案内や参加に積極的に取り組まれることが期待される。職員の発案によるレクや行事などの取り組みが現実的につながることも望まれる。

H29.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症コーディネーター研修にて権利擁護を学び人としての関わりを大切にすることを努めている。	管理者が昨年参加している研修の中で、人権学習の講義があり、ミーティング内で口頭による伝達をしている。市などが主催する人権関連の研修があるが参加はなかった。	外部研修の案内はあるが、参加がなかったため、積極的に参加検討がなされていくことが期待される。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には参加しているが、外部研修には参加できていない。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症コーディネーター研修を通して同業者との交流を大切にしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴など聞き取りを行いながら、現状把握に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など、利用者の近状をお知らせし、要望なども伺うようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望など		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る力を大切にして関係性を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所だけではなく、ご家族と情報交換を行いながらご本人を支えていけるように努めている。		

H29.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事などに参加し知人との関係が途切れないように努めている。	家族の面会機会も多く、外泊する方もいる。行きつけの美容室に継続していく方もおり、事業所から同行支援している。近所の知人から電話があったり、よかばい体操に来ていた人が職場の元同僚で、話のきっかけにもなっている。家族が遠方の方でも事業所が間に入ることでそれぞれの関係性を継続している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士と一緒に過ごせる時間を持ちお互いの関わりを続けられるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント、モニタリングなどで、本人の状況把握、問題課題の検討を利用者本位で行っている。	一昨年から管理者がパーソンセンタードケアに取り組み始め、昨年からサービスにも取り入れ始めた。一部の方に「ひもときシート」を用いたアセスメントを行い、問題行動の裏にある思いを引き出し、ケアに取り入れることで、状態の安定や新たな意欲の刺激にもつながった。基本的なアセスメントはケアマネが行い、現場の意見や記録、家族の意見などから情報を共有している。	入居者全員に対してもセンター方式やひもときシートを用いたアセスメントを行い、より深く入居者の情報が把握できるように取り組まれることが期待される。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートにて確認している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握するように努め、モニタリングし、介護計画に活かしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度のモニタリングや、会議、他にもその都度、話し合いを設けている。	プラン作成は主にケアマネが行い、3ヶ月ごとのモニタリングは現場の担当者の意見も聞きながら同様に監修している。プランの見直しも半年～随時でも行い、新たに分かった問題点や注意事項は追記して随時書き加えている。担当者会議も見直し時に開催し、本人や家族、看護師などの意見や要望も聞きながら取り組んでいる。プラン内容は見直しの際の回覧やリーダーからの伝達で共有している。	

H29.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や日誌、申し送りなどを活用し共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の想いに対応できるように業務優先にならないようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり出来ていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所からの情報提供を徹底し適切な医療を受けられるように連携している。	母体が病院であるため、入居者も希望して提携医にされる方がほとんどである。他科受診の際は基本的には家族に支援してもらうが、難しい場合などは事業所からも支援する。定期受診は訪問診療か通院それぞれで対応する。常勤看護師がおり、医療対応は主に看護師が行い、日々の健康管理もされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師がいる為、相談しながら支援出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院スタッフとの情報共有し、安心して医療が受けられるように、また、早期退院できるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組めていないが、本人、家族の意向を聴いている。	現在までに看取った事例もなく、指針も今のところ定めていない。直近の運営推進会議で意見としてあがったため、今からの取り組みとして検討している。母体病院も夜間の連絡体制はあるが、救急の受け入れは行っていないため、看取りに対応できる病院との提携も今後は検討していく。系列施設では対応事例もあり、共有も出来る。	職員間で看取り体制や方針に関しての話し合いがなされることが期待される。研修や勉強会を通じて理解を深め、今後の準備がなされていくことも望まれる。

H29.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で学んでいるが、実践する機会が少ない。今後、検討し、職員全員が、冷静に対応できるようにしたい。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施。	系列の介護事業所5施設で合同の防災訓練が年2回あり、うち1回は消防署の立会いもある。昼夜想定でそれぞれ行い、回により担当施設も変えている。以前は地域にも呼び掛けていたが、今はされていない。以前断水があったことで備蓄は水のみしており、食料品はない。AED設置や、救急救命訓練も実施されている。	地域の方への訓練の呼びかけや、協力体制が築かれていくことが期待される。自治総会での呼びかけや案内を実施してはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを共感して、言葉かけをしている。対応に対して、振り返りをするようにしている。不適切な対応があればお互い注意しあえるように努めている。	入室やトイレ利用時には必ずノックをして同意を得るようにしており、言葉かけも相手の自尊心に配慮するよう心がけている。接遇の研修も毎年行い、マナーについても勉強する。言葉かけなど不適切な行為がないように、その場で職員同士でも注意するようになっている。個人情報に関しては写真利用も含めて入居時に書面で同意を頂くようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ある程度出来ている。本人に聞くようにして、自己決定が出来るように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り行い、本人に尋ねるようにしているが、職員側で判断している部分もある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や帽子などご本人と一緒に選び、買物で自身で選んでもらうこともある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は限られているが、可能な方は、毎日行っている。	職員が調理を持ち回りで担当し、メニューはその日の担当が入居者と相談しながら決めており、出来る人には手伝ってもらいながら調理している。買い物も毎日、入居者の誰かと一緒に行っている。以前は職員も一緒に食べていたが、今は介助者も増えたことで別々にしている。おやつ作りなどを一緒にすることもある。感想や好みなども日々聞きながら反映している。	

H29.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録をとり、確認している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い介助が必要な利用者には介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でのトイレ誘導を行っている。排泄パターンの把握に努めている。	個別の介護記録の中で、24時間の排泄記録をチェックするようしており、それぞれの排泄パターンを職員間で声掛けしながら共有して、トイレ誘導もしている。自分で出来る方はなるべく自分でしてもらい、後から聞いたり、トイレの様子を後から確認したりしている。パットの量や、適切な下着の提案などは気づいた職員がミーティングや申し送りなどで随時提案して改善に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防で飲食物では、工夫されているが運動の機会が少ない。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の訴えが少なく、職員が判断している。	三方向介助が出来る位置に浴槽が設置され、手すりなどを使って移乗ができ、重い方は2人～3人での介助をしている。基本的には週2回、昼過ぎから夕方くらいまでの対応である。希望があれば入浴日以外の対応もしている。お湯も入居者ごとに変え、毎回入浴剤も使用している。柚子や菖蒲など行事浴も行う。皮膚観察も行い、看護師と共有して対処している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の習慣に応じて休息・安眠の支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように努めているが、服薬の把握が不十分である。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分とは言えないが、得意な分野での力の発揮、役割を生かした支援をしている。		

H29.3自己・外部評価表(GHきらめき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や外出行事の機会があり、ある程度、達成出来ている。外出支援、ボランティアの方を作り活かしていれば尚、良い。	年間の外出行事で、花見やひな祭りなどで2ヶ月に1回程度は事業所として企画している。個別に外出に行ったり、行事の際に皆で一緒に行ったり、サロンや公民館なども行ける方と一緒に参加することもある。日常的にも散歩や買い物などに、それぞれ偏りが無いように働きかけて機会を作っている。敷地内も十分な広さがあり、安全に外出を楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていない。出来そうな方は、おられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	声かけし出来る可能性はあるが、現状できていない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを設けている。施設内の廊下の色が異なった模様になっている事もある為、少し混乱がある様子。	平屋建てで、併設のデイサービス、小規模多機能とも棟続きでつながっており、各施設は障子戸だけで仕切られていることで行き来も自由にされている。こげ茶で深みのあるフローリングや家具などにより、空間に落ち着きがある和モダンの造りで、各所が中庭や駐車場に面しており、窓が多いため明るい。4人掛け程度のテーブルをいくつか置くことで、それぞれの場所でゆったりと寛がれていた。アイランドキッチンからの見通しも良く、食事の様子なども近く、家庭的な雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者との関係を大切に利用利用者同士での人間関係の構築出来るように支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や、ベッドの配置も工夫して、私物や写真があり、本人が落ち着かれるような環境を整えるように工夫している。	フロアと同じタイル張りの床材で、掃除もしやすく清潔にされている。リビングとは回廊式の廊下を隔てて配置されているため静かに休むことができる。介護ベッドのみ備え付けられ、入居者はそれぞれソファやタンスなどを自由に持ち込んで部屋作りをしている。各居室の掃き出し窓からは中庭や裏山が望め採光も良く開放的である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで安全性はあるが、反面、生活の中での機能訓練にはつながらない。歩行状態に合わせた、福祉用具の使用で自立した移動が出来るようにしている。		